

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	7
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	12
➤ 会議・イベント案内 & 書籍紹介	14

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### 小さな自然再生普及促進プロジェクトー 今年度全 5 回「小さな自然再生」現地研修会のお礼

2023 年 4 月から 5 月にかけて全国より研修会開催希望地を公募し、今年度はこれまでで最多となる全 5 回の「小さな自然再生」現地研修会を開催致しました。

地元主催団体も多種多様で、第 18 回@和気町ではママさん達が主体の「わけっこパーク」、第 19 回@長浜市では川好きが集まった「米川よろず会議」、第 21 回@豊岡市では親子向けの自然観察会を主催する「但東 野あそびくらぶ いつなつと」、第 20 回@魚沼市では魚類の保全に取り組む「奥只見の魚を育てる会」、そして第 22 回@東近江市では企業内有志で構成する「株式会社 IHI」とともに、知恵を絞り合って各研修会を企画し、無事に開催することができました。

今年度の全 5 回研修会の延べ参加人数は、講師や運営スタッフも含めて約 250 名となります。各研修会で得られた成果は、当日参加できなかった方々にもご活用頂けるよう、今年度末までに開催報告書としてとりまとめ、以下のページにて公開させていただきますので、もうしばらくお待ちください。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/jrrn-lecturereport>

なお、今年度の現地研修会も、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて開催させていただきました。研修会開催に不可欠な様々なリソースをご提供頂きました関係団体の皆様に心から御礼申し上げます。

(JRRN 事務局・和田彰)

### 「小さな自然再生」現地研修会 開催地位置図 (2015~2023 年度)



- 北海道釧路市・釧路川 (第 14 回)**  
テーマ：釧路川支川の魚類生息環境を再生する
- 秋田県大仙市・齊内川 (第 8 回)**  
テーマ：道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出
- 秋田県大仙市・齊内川 (第 10 回)**  
テーマ：多自然をモニタリングする
- 茨城県土浦市・霞ヶ浦 (第 17 回)**  
テーマ：浄化施設導水路と湖をつなぐ魚の通り道をつくる
- 千葉県白井市・神崎川 (第 5 回)**  
テーマ：神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？
- 東京都中野区・善福寺川 (第 12 回)**  
テーマ：自然観察から都市河川でできることを考えよう
- 愛知県豊田市・岩本川 (第 1 回)**  
テーマ：岩本川でできる小さな自然再生を考える
- 愛知県名古屋市・矢田川 (第 9 回)**  
テーマ：事前モニタリングで学ぶ土砂移動（河道内地形）
- 滋賀県守山市・大川 (第 13 回)**  
テーマ：河口部・内湖の保全と再生を考える
- 徳島県神山町・鮎喰川 (第 15 回)**  
テーマ：小さな自然再生のワクワクで地域と川をつなげよう
- 兵庫県西宮市・武庫川 (第 4 回)**  
テーマ：魚類の生息・瀬上環境の改善
- 福井県福井市・志津川 (第 6 回)**  
テーマ：魚類の遡上環境の改善～九頭竜川流域の連続性確保に向けて～
- 滋賀県長浜市・高時川 (第 2 回)**  
テーマ：瀬切れ時の水棲生物の避難場所を創出するための川づくり
- 京都府宮津市・大手川 (第 16 回)**  
テーマ：フナの里帰り：自然と親しむ空間を復活させよう
- 京都府南丹市・美山川 (第 11 回)**  
テーマ：森と川のつながりを考える
- 岡山県西粟倉村・吉井川 (第 7 回)**  
テーマ：吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何かできるか？
- 福岡県福岡市・上西郷川 (第 3 回)**  
テーマ：間伐材水制による瀬淵環境の再生

**● 2023 年度開催地**

(18)岡山・日笠川、(19)滋賀・米川、  
(21)兵庫・出石川、(20)新潟・只見川、  
(22)滋賀・愛知川



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト 第19回現地研修会 in 滋賀県長浜市・米川 開催報告

2023年10月15日(日)に、第19回「小さな自然再生」現地研修会を滋賀県長浜市・米川にて開催致しました。

長浜市の中心市街地は秀吉により城下町として整備され、宿場町や琵琶湖水運の要衝として発展し、今なお多くの歴史的な建造物や町並みが残ります。その長浜の街中を縫うように流れ琵琶湖に流入するのが米川で、流域面積は約1.3km<sup>2</sup>、流路延長は約3.7kmほどの小さな一級河川です。米川の両岸には家屋が隣接し、昔ながらの石垣や水辺にいたる階段が残っています。加えて、米川は比較的水深が浅く、湧水を水源とするためきれいで、アユの姿をみることもできます。そのため、簡単に川の中にアクセスし、気持ちよく川歩きができる、まさに「ウォークアブル」な川。今回の研修会は、そんな米川を対象に、かわとまちなかを実際に歩き、自然再生、まちづくり、流域治水など様々な観点から「ウォークアブルな米川」の未来像について考えることを目的に開催されました。市内外から約40人、高校生や大学生の参加も多く(30代以下が7割)、市役所や河川管理者も含め様々な立場の人たちが参加しました。

地元で活動する米川よろず会議のアイデア紹介のコーナーでは、メンバーの andstep や滋賀県立大学の皆さんから発電チャレンジやバーチャル米川、駐車場の透水性舗装による洪水時の水位低減可能性など、グリーンインフラや流域治水といった幅広い観点からの発表に参加者の関心も高まりました。そしてここで、事例紹介として、愛知県岡崎市「ONE RIVER」の岩ヶ谷さんや小学生の葵くんから、川が人々の日常の物語の場所となっている現在の状況について語っていただき、参加者の多くの共感を得ていました。



長浜のまちを行く胴長の集団



かわ歩きの様子(まちから水辺が近い！)

第19回「小さな自然再生」現地研修会 プログラム

10:00~12:00 概要説明、米川&まちウォーク

フィールドワークしながら「かわ」と「まち」を学ぶ

12:30~13:30 昼食

13:30~17:00 米川を活かしたまちづくりアイデア会議

- ・米川よろず会議のアイデア紹介
  - ・議論「米川&長浜 これからのまちづくり」  
(事例紹介:愛知県岡崎市乙川のかわまちづくり)
- 講師:岩ヶ谷充(OVER RIVER)

17:00 閉会

会場は明治の時代から長浜のまちを見つめてきた「安藤家」。歴史ある建築物の座敷に全員が集まり、まずは今回の発起人である長浜まちづくり会社の竹村さんから、長浜のまちや米川の概要とともに、今回の趣旨説明がなされました。江戸時代の絵図を見ると昔は川が表通りだった、など、長浜愛、米川愛に満ちた熱い想いを聞いたあと、観光客も行き交う会場前で胴長を身に付け、いざまちに繰り出します。ほどなく米川に入り、川歩きを始めました。アユやサワガコといった水生生物をとったり、いけすの名残など人々の暮らしとの密接な関わりについて学んだりしながらじゃぶじゃぶと川の中を進みます。そんな川歩きの様子を観光客も興味深く感じたようで、多くの人に声をかけられました。

午後は会場に戻り、午前中の体験から実際にみんなで考え議論する会となりました。スマートフォンを用いて自分の考えを入力し、即座に画面上でシェアできる「Ahaslide」というサービスを利用し、感想やアイデアを共有しました。このシステムがうまく機能し、みんなの正直な意見が投稿され、会場も盛り上がり



米川の未来アイデア

最後に、参加者それぞれの「米川の未来アイデア」を考えてもらいました。「会議を米川沿いで開催」「胴長通勤」「胴長レンタルサービス」「米川あるきマップづくり」「天然水族館」などなど、さまざまなアイデアが披露され、世代を超え感想を言い合うというちょっと贅沢な空間となりました。今回の参加者全員が米川のファンになり、その未来の可能性を感じた1日となりました。

(JRRN 事務局・阿部 充)

## JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

## 小さな自然再生普及促進プロジェクト-第20回現地研修会 in 新潟県魚沼市・北の又川 開催報告

2023年11月3日(金・祝日)、第20回「小さな自然再生」現地研修会を新潟県・魚沼市・只見川水系北ノ又川にて開催しました。只見川と言えば、巨大イワナやサクラマスが生息する奥只見ダムのダム湖「銀山湖」に注ぐ、釣り人垂涎の知る人ぞ知る川です。その中でも北ノ又川には、巨大魚が100尾以上も大集結し、産卵イワナのつがい形成の場として、あるいはフィッシュウォッチツアーといった地域の見どころとして重要な深淵である「宮ノ淵」が存在します。ところが、平成16年の新潟・福島豪雨の際、上流の山腹崩壊由来の土砂が淵に流れ込み、3m以上の水深があった宮ノ淵は、今では半分程度まで埋まってしまいました。

そこで、今回の取り組みは、当地の自然を愛した作家、故開高健氏が初代表を務めた「奥只見の魚を育てる会」の皆さんを中心に、講師の先生、学生、一般参加者を交えた総勢41名により宮ノ淵復活に向けた取り組みを行いました。

午前の座学研修では、奥只見の魚を育てる会の中島代表から銀山湖の形成から会の取り組み経緯について、徳島大学川口先生から瀬淵におけるイワナの利用について、新潟大学権田先生から瀬淵の形成や構造について、技術コンサルタントの岩瀬さんからはバープ工の設置による流れ場の変化と淵の再形成についての説明が行われました。その後北ノ又川に移動し、参加者によるバープ工の組み立て、礫の投入などを、一部バックホウの力も借りながら行いました。

参加者は近年まれに見る陽気に包まれて、秋晴れの中充実した時間を過ごせました！今後の地形変化が見逃せません。

## 第20回「小さな自然再生」現地研修会 プログラム

9:00~10:20

&lt;イワナの淵づくりに関わる座学研修&gt; @銀山平温泉「白金の湯」

開会挨拶

奥只見の魚を育てる会の取り組み

(中島典則：奥只見の魚を育てる会)

イワナの生態を知る

(河口洋一：徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

溪流の瀬淵構造を知る

(権田豊：新潟大学農学部農学科)

バープ工による淵づくりの挑戦

(岩瀬晴夫：株式会社北海道技術コンサルタント)

10:20~11:40 昼食 及び 移動

11:40~15:30 大イワナの淵づくりの実践@北ノ又川

&lt;イワナの淵を復活させるためのバープ工3基を制作・設置&gt;

■現地技術指導：岩瀬晴夫・川口洋一・権田豊(同上)

15:30-16:00 移動

16:00 閉会 ※銀山平温泉「白金の湯」駐車場解散



「溪流の瀬淵構造を知る」座学研修の様子



バープ木枠の組み立て・設置



積み上げたバープの前で記念撮影



完成したバープと「宮ノ淵」

(JRRN 事務局・白尾豪宏)

小さな自然再生普及促進プロジェクト 第22回現地研修会 in 滋賀県東近江市・愛知川流域農業排水路 開催報告

2023年11月12日(日)、第22回「小さな自然再生」現地研修会を新滋賀県・東近江市・愛知川流域農業排水路にて開催しました。主催はプラントから宇宙開発まで展開する株式会社IHIの皆さんでした。きっかけは、IHIが地元土地改良区より対象地の農業取排水整備を業務委託していた中で、排水が集まる三面張りの小河川が、市内の小学生の学びの場である「河辺生きものの森」に隣接していることへの気づきでした。この水路を子供達の実験学習の場として環境改善できないか？さらにこうした環境改善を利水整備と合わせて事業化できないか？との考えから始まりました。

そこで、今回の取り組みは、IHIの皆さんが、滋賀県立大学 瀧教授のフィールドワーク実習等で学んだ見直し結果を題材に、参加者全員で全長約1kmの水路内を踏査のうえ、環境改善についての意見交換を行おうというものでした。

午前の座学研修では、ペリー来航に対抗し幕命で創設されたIHIの歴史と取組経緯の紹介、河辺生きものの森で活動する里山保全活動団体 遊林会による対象水路での子供達の魚とり体験やアユ産卵場造成の取組発表、愛知川漁協組合長による公的基金と地域連携を活用したピワマス遡上魚道設置の取り組み、東近江市による部局横断的な環境保全創出の取り組みについて発表がありました。

昼食後には各自が持参した胴長等を着用のうえ、ツルヨシをかき分けながら水路を遡上。本川合流点ではなんと婚姻色のピワマスの遡上を間近に見ることができました！

その後会場に戻り、落差解消や多様な流れ場の創出等、

意見交換を行いました。講師の岩瀬さんによる土砂水理学的なアプローチをベースに、国、県、市、大学、土地改良区、漁協、市民団体、地元住民と、非常に多様な主体の参加の中で活発に意見が飛び交いました！最後には、こうした議論の内容を、滋賀県立大学 瀧教授の研究室所属の修士学生 泉野さんが、絵と簡潔な文章で整理した画像でまとめ上げ、盛況の中で閉会となりました。



午前の座学研修の様子



バーブの見直しと現地説明



活発な意見交換の様子



議論の結果得られた水路の改善案 (JRRN 事務局・白尾豪宏)

**第22回「小さな自然再生」現地研修会 プログラム**  
**9:30~11:00** 小さな自然再生の座学研修@ネイチャーセンター  
**開会挨拶**  
**IHIによる小さな自然再生の挑戦**  
 (吉田公亮：株式会社IHI 技術開発本部 技術企画部)  
**そとイコ！「川ガキ育成塾」に向けた取り組み**  
 (熊木香：特定非営利法人 里山保全活動団体 遊林会)  
**愛知川における小さな自然再生の取組**  
 (村山邦博：愛知川漁業協同組合)  
**森里川湖をつなぐ愛知川について**  
 (丸橋裕一：東近江市 環境部 森と水政課)  
**11:00~12:00** 昼食 及び 現地移動  
**12:00~14:30** 小さな自然再生の実践@愛知川流入水路  
 愛知川合流点から河辺いきものの森までを遡上しながら、小さな自然再生についての気づきを得る  
**■現地講師**：瀧健太郎・岩瀬晴夫・白尾豪宏  
**14:30-16:00** 小さな自然再生でできることを考える座学研修  
 @ネイチャーセンター  
**16:00** 閉会

JRRN 事務局からのお知らせ (5) JRRN Activity Report

国際交流活動 – 韓国河川協会視察団の河川管理に関わる来日技術交流の支援報告

2023年10月23日(月)～25日(水)の3日間、「日本河川技術交流ワークショップ2023」として韓国河川協会の視察団(自治体職員14名、民間企業1名、河川協会職員2名の計17名)が近畿及び北陸の河川管理者との技術交流を目的に来日し、治水・利水・環境に関わる自治体及び国が管理する現場を訪問しました。

この韓国河川協会は、JRRN が属する「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の韓国窓口組織 KRRN の事務局を務め、2008年より現在まで、来日視察において JRRN が視察先との事前調整や現地案内等の支援を担っております。

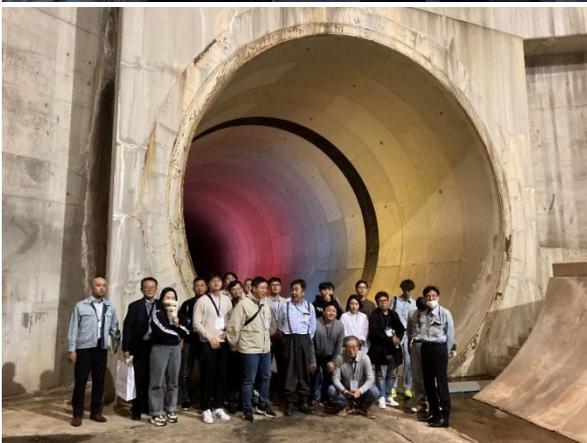
※韓国河川協会 (韓国語ページ) : <http://www.riverlove.or.kr/>



琵琶湖河川事務所・アクア琵琶



宇奈月ダム



松原南調節池 及び 寝屋川南部地下河川



黒部川



淀川・城北ワンド

今回の視察に際しては、大阪府都市整備部河川室、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所及び琵琶湖河川事務所、また国土交通省北陸地方整備局黒部河川事務所の関係者各位に、事前調整段階から当日の視察案内まで多大なるご協力を頂き、充実した日韓技術交流となりました。

ご協力頂きました皆さま、誠にありがとうございました、

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (6) JRRN Activity Report

国際交流活動 – ARRN 年次活動報告 (第19回水辺流域再生国際フォーラム 及び 第17回運営会議)

JRRN が所属するアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)主催『第19回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』が2023年11月21日(火)に中国湖北省の十堰市にて開催されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催が続いておりましたが、2019年以来の4年ぶりの対面での開催となります。

今年のフォーラムは「Lake and Reservoir Source Water Conservation and Near-Natural Restoration of Watersheds」をテーマに開催され、日本 (JRRN) 及び韓国 (KRRN) より各2題、中国 (CRRN) より3題の計7題の発表がありました。

日本からは、最近の河川環境施策の話題として、生態系ネットワークの構築に向けた取組みと生息ポテンシャルマップの概要について、また河川環境管理シートの仕組みと活用事例について紹介しました。

中国からは、南水北朝プロジェクトの中流域における取組みとして、フォーラム開催地の湖北省十堰市に位置するアジア最大規模の丹江口ダムから北京や天津など大都市への約1,200kmの導水事業の概要が紹介されました。水量と水質の確保に向けた水源地域管理やモニタリングの内容、さらには南水北朝事業に関わる12の研究機関による課題解決に向けた研究と将来の維持管理の担い手を育成する教育について発表がありました。また、中国における生態系ネットワーク構築の考え方や事例なども紹介されました。

韓国からは、ソウル市北部に位置するChangneung川及びPocheon川における統合的な河川再生事業の紹介がありました。両河川共通の内容として、まずは現状を把握し、現計画をレビューし、そして安全性、健全性、親水性、生態との共生等の観点から新規目標を設定し、個々の目標達成のための計画・設計を行う流れが紹介されました。

第19回水辺流域再生国際フォーラムのプログラム

November 21, 2023 (Wednesday) 9:00-12:00 am

Time	Content	Speaker	Chair
09:00-09:20	Opening Address	Prof. Wang Xiaogang, President of ARRN	Baiyinbaoligao Secretary General of ARRN
	Welcome Speech	Mm. Chen Ru, Deputy Party Secretary, Secretary of Political and Legal Committee, Government of Yunyang District	
	Group Photo		
09:20-09:40	Construction method and cases of regional ecological water network based on 3F4D connectivity model of river system	Prof. Zhao Jinyong, IWHR, China	Prof. Zhao Jinyong, Director of Technical Committee of ARRN
09:40-10:00	Examples of Habitat Potential Map Utilization to visualize Watershed	Akira Wada, researcher, Riverfront Research Center, Japan	
10:00-10:20	Comprehensive Restoration Plan of Changneung River in Goyang	NOH YoungMin, Managing Director, Korea Engineering Consultants Corp.	
10:20-10:40	Water Ecological Security in the Water Source Area of the Middle Route of the South-to-North Water Diversion Project	Prof. Li Yuying, Nanyang Normal University, China	
10:40-11:00	Ecological Rehabilitation Plan of Pocheon River in Korea	LEE YunHo, Deputy Department Head, K-Water	
11:00-11:20	Quantitative Assessment of River Environment and River Restoration in Downstream Rivers of Dams	Takehiro Shirao, researcher, Riverfront Research Center, Japan	
11:20-11:40	Introductions to the Source Area Protection and Danjiangkou Reservoir	Ke Xiangguo, Deputy Head, Government of Yunyang District	
11:40-12:00	Free Discussion	All participants	



各講演資料は、後日に以下のJRRNのウェブサイトページ内に掲載致します。

◆第19回国際フォーラム報告ページ

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/1006>

また、『第19回ARRN水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』の翌日には、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の理事会に相当する「第17回ARRN運営会議」が同会場にて開催され、日中韓の各RRNメンバーが参加し、ARRNの次年度活動計画等についての審議が行われました。

本運営会議では、はじめに昨年のARRN運営会議以降のARRN及び各国内ネットワークの活動内容を共有するとともに、これから1年間の活動計画として、来年の年次活動の開催候補地に関する協議、また連携活動として、アジアの河川再生ガイドラインの更新等を進めていくことなどが決まりました。



**ARRN**  
Asian River  
Restoration Network

## 17<sup>th</sup> ARRN Governing Council Meeting List of Members

**Chair:**

Chairperson of ARRN      **Xiaogang Wang**  
*China Institute of Water Resources and Hydropower Research: IWHR*

**Participants:** (Representative of RRN, Governing Council Member with voting right)

**China River Restoration Network (CRRN)**

Chairperson      **Xiaogang Wang**  
*China Institute of Water Resources and Hydropower Research: IWHR*

**Korea River Restoration Network (KRRN)**

Chairperson      **Suk Hwan Jang**  
*Daejin Univ., Korea*

**Japan River Restoration Network (JRRN)**

Chairperson      **Nobuyuki Tsuchiya**  
*Japan RiverFront research Center: RFC*

**Observer:**

**(CRRN: China River Restoration Network)**

**Baiyinbaoligao**      *China Institute of Water Resources and Hydropower Research: IWHR*  
**Jinyong Zhao**      *China Institute of Water Resources and Hydropower Research: IWHR*  
**Chongshan Guo**      *China Institute of Water Resources and Hydropower Research: IWHR*  
**Yuying Li**      *Nanyang Normal University, China*

**(KRRN: Korea River Restoration Network)**

**Youngmin Noh**      *Korea Engineering Consultants Corp*  
**Jonghwan Jang**      *Dongbu Engineering*  
**Sunho Choi**      *Korea Consulting Construction*  
**Bonwoong Ku**      *Shinwoo Construction*  
**Daejung Oh**      *GANGNAM DISTRICT SEOUL KOREA*  
**Seongkyu Hwang**      *INNOBLUE, LTD*  
**Ungcho Choi**      *MIRAE Structural Safety Research Institute Co., Ltd.*  
**Yunho Lee**      *K-Water*

**(JRRN: Japan River Restoration Network)**

**Takehiro Shirao**      *Japan Riverfront Research Center: RFC*  
**Akira Wada**      *Japan Riverfront Research Center: RFC*



(JRRN 事務局・和田彰)

## JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

## 第21回「小さな自然再生」現地研修会 in 兵庫県豊岡市・出石川 開催報告

寄稿者：西垣 由佳子（但東 野あそびくらぶ いつなっと）

10月20日（金）、兵庫県豊岡市但東町にて第21回「小さな自然再生」現地研修会を実施しました。地域の子供たちとの自然観察会や体験活動を通して、出石川の小さな自然再生に取り組んでいる「但東野あそびくらぶ いつなっと」と、高橋地区の町づくりを進める「たかねっと」の皆さん、そして、但馬地方の川での活動を行う各団体のリーダーたちが一堂に会しました。



開会挨拶の様子（たかねっと 小峠恵介会長）



出石川でのフィールド活動の様子

## 第21回「小さな自然再生」現地研修会プログラム

## 10:00～11:00 &lt;小さな自然再生、ミニ座学&gt;

出石川について

（但東 野あそびくらぶ いつなっと 藤木恭子）

出石川の魚類について

（NPO 法人コウノトリ市民研究所 北垣和也主任研究員）

小さな自然再生のすすめ

（三橋弘宗氏：兵庫県立人と自然の博物館）

## 11:30～12:45 &lt;小さな自然再生の実践&gt;

■現地指導講師：三橋弘宗氏（兵庫県立人と自然の博物館）

13:00～14:00 昼食（但東町の野菜と鹿肉のジビエカレー）

14:00-15:15 &lt;出石川の現状と意見交換会&gt;

15:30 閉会

閉会挨拶（兵庫県生物学会但馬支部長 菅村定昌氏）

まずはミニ座学として、出石川の概要や魚類の紹介、兵庫県立 人と自然の博物館の三橋弘宗先生による「小さな自然再生のすすめ」として話を聞きました。当日は雨予報で、出石川での実習は無理かと思われましたが、何とか天気も持ち堪えてくれました。参加した約40名で2本のバープ工を即興で作り、水の流れに変化が生まれる様子を目の当たりにしました。すぐにバープ工の下流側には稚魚が集まり始め、納得した表情の皆さん。落ち葉堆積の重要性や今後のどのように川が変化していくかなどを楽しく学び合いました。

今回の学びを各自がフィールドに持ち帰り、豊岡のいろいろな場所で小さな自然再生の取り組みが行われることを願ってやみません。何より印象的だったのは、ふるさとの川が大好きな人たちが集まり、老いも若きも一緒になって笑顔で石を並べる様子。今回の研修会では団体同士の交流も生まれ、地元の漁協さんとの貴重な意見交換の場にもなりました。出石川での小さな自然再生への取り組みは始まったばかり。今後も人と人が繋がる川づくりを目指して一歩ずつ歩いていきたいと思ひます。



設置後のバープ工

## JRRN 会員寄稿 (2) JRRN Member Contribution

## サクラマスの復活に向けて～「小さな自然再生」勉強会 in 北川上流域 を開催しました

寄稿者：是永 宙（結いの里・椋川）

滋賀県高島市西部の椋川や天増川を源流として福井県小浜市に流れる北川に「小さな自然再生」で再びサクラマスを上遊させよう！というプロジェクトの勉強会を熊川にて開催しました。あいにくの時雨れ模様でしたが、地元の方も多くの方が参加してくださり、川への関心の高さが伺えました。

勉強会では、福井県立大学の田原先生がサクラマスの生態や北川の状況について、滋賀県立大学の瀧先生が「小さな自然再生」の取り組み事例などについて説明されました。

説明後の質疑応答では、地域の方から「昔は〇〇で、たくさんサクラマスやアユが獲れた」「中学生の頃、△△で友だちと潜ったときにマスを見たし、淵の底でじっとしているマスの腹を撫でたこともある」「どんな取り組みをしたら良いのか？」などなど、川にまつわる懐かしい記憶や、これからの取り組みへの前向きな質問・意見が出されました。

熊川では以前から用水を利用したホタルの再生にも取り組んでおられ、用水の確保や維持作業に苦勞しているという話も聞きました。まずは、小さな自然再生をホタル生息地の再生や用水確保に活用して、取り組みを拡げていくのが良いのかなと考えています。

先日放映された「ぶらタモリ」でも取り上げられましたが、北川は小浜から京都への物流で大きな役割を果たしていました。朽木～椋川～熊川の区間は、買い物や通院などで頻繁に行き来があったことをご年配の方はよく話しをされています。

現在の北川は行政区分の関係（上流部が滋賀県、中・下流部が福井県）もあって、連携した取り組みがしにくい状況がありますが、今回のプロジェクトをきっかけにサクラマスだけでなく、人や地域のつながりも再生できたらと考えています。

水がぬるむ季節になったら、実際に川の様子を見て歩いたり、小さな自然再生活動をやってみることにしています。取り組みの日程が決まったらお知らせしますので、プロジェクトに関心のある方は大歓迎ですので、住んでいる地域に関係なくご参加いただけたらと思います。



【開催趣旨】 滋賀県と福井県にまたがり水質日本一を誇る北川流域。しかし、河川環境の悪化により、かつて最上流域の椋川地区まで遡上していたサクラマスが現在は見る事ができなくなりました。サクラマスの復活を夢見て、全国的に広がりを見せる「小さな自然再生」勉強会を開催します。本勉強会では、サクラマス復活に向けた課題を参加者とともに共有します。

開催日時 令和5年11月30日（木） 19時～20時半

会場 熊川地区公民館

対象 小さな自然再生に関心のある方

参加費 無料

## 北川サクラマス越境プロジェクト

開会挨拶

北川サクラマス越境プロジェクト（是永 宙：結いの里 椋川）

サクラマスについて（田原 大輔：福井県立大学 海洋生物資源学部）

「小さな自然再生」でできる河川環境の改善（瀧健太郎：滋賀県立大学環境科学部）

主催：北川を遊べる川にする有志の会（仮称）

協力：結いの里・椋川、滋賀県立大学環境科学部・灌漑研究室、公益財団法人リバーフロント研究所



勉強会の様子

12月



# あの日のあの川 リレー日記 ～第71話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

## 第71話主人公 三浦護人

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：東京都秋川)

### 「川とどう向き合うか」

いつのこと？： 高校2年生

どこの川？： 秋川(東京都)

こんにちは。筑波大学白川研究室に所属している三浦護人と申します。このリレー日記では私が川に自然の恐ろしさを痛感させられたエピソードについて書きたいと思います。

秋川は、東京都檜原村の三頭山に水源を発生し、あきる野市で多摩川に合流する一級河川です。秋川上流区間は「秋川渓谷」と呼ばれており、レジャースポットとしても有名な場所です。また、秋川が流れる東京都あきる野市は私が生まれた地であ

り、祖父母の家に行くときはよく秋川を見ていました。そんな秋川で自分がひどい目に遭うとは思っていませんでした。

高校 2 年生の夏、私は部活動の仲間と秋川のバーベキュー場を訪れました。天気は快晴で、川は丁度良い冷たさで、夏の最後の思い出にはぴったりの日であったと記憶しています。初めはレンタルテントの下で、みんなでバーベキューしながら談笑していたのですが、時間が経つにつれ、川遊びに行く人、食べ物に夢中な人、寝ている人などグループに分かれていき、私は何人かと川に遊びに行きました。初めは水浴び程度だったのですが、好奇心旺盛だった私達は川を下ってみたくなり、数名で浮き輪に掴まり、流れに身を任せ、川下りをしました。川を下っている間は、流れが速いところや深いところがあったり、景色が変化していったりと当時の私にとってはワクワクすることが多く、まさに冒険しているような気持ちでした。流れていると、落差工が見えてきました。危険を感じそこで終わりにしようとしたのですが、落差工付近の流れが非常に速く、私ともう一人の友人が浮き輪から手を離れた次の瞬間、2人は流れに吞まれました。落ちている間は呼吸もできず、身体も色々なところにぶつかり、本気で死を悟りました。今でもあの数秒間の出来事は鮮明に覚えているほど、私にとって衝撃的な出来事でした。そして、十数年生きてきて初めて自然の怖さを、身をもって痛感しました。生まれた地で死にかけたという意味でも、秋川は私にとって非常に思い出深い川となっています。希しくも、死にかけた「川」に関する研究室に所属している私ですが、もしかしたら運命だったのかもしれない。

川でこのような体験をしてしまったので、研究室に所属する以前の川への印象はあまり良いものではありませんでした。しかし、川に関する学問の世界に飛び込んでみると、川は多くの人々の生活の基盤となり、私たちの生活とは切り離すことができないことを知りました。また、研究室では川の世界がどれほど大きく、深いものなのかを日々味わっています。川の持つ大きなエネルギーを、身をもって感じたからこそ、そのエネルギーをポジティブに引き出せるような発見を、研究を通じてこれから出来たら良いなと思っています。秋川ではひどい目に遭いましたが、好奇心は忘れずにこれからも川と向き合っていきたいです。

(次は岸本季紗さんにバトンを託します)

## 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ *RiverFront Support Center*

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

## 「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第11回目・第12回のウェブセミナーを開催しました！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：渡邊祐介）

### ■第11回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第11回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を2023年10月20日（金）に開催しました。

第11回目は、「3次元データを活用した多自然川づくり」に関して、「Q10-1 3次元データを活用した多自然川づくりの現状について教えてください」と題してリバーフロント研究所の中村主席研究員より、「3次元データを活用した川づくりの最新事情について」と題して山梨大学大学院総合研究部附属地域防災・マネジメント研究センターの大槻准教授よりご紹介いただきました。

参加申込者は、おおよそ行政関係者が約3割、コンサルタント関係者が約6割で全体の約9割を占めており、合計で469名の方々に参加申込いただきました。参加者の皆様ありがとうございました。

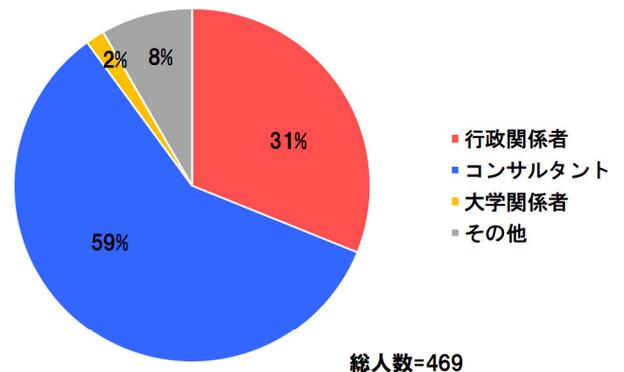


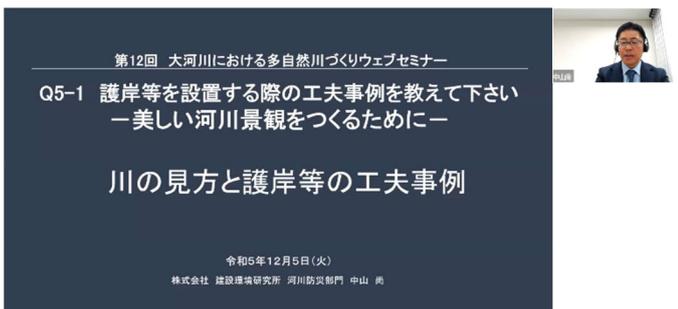
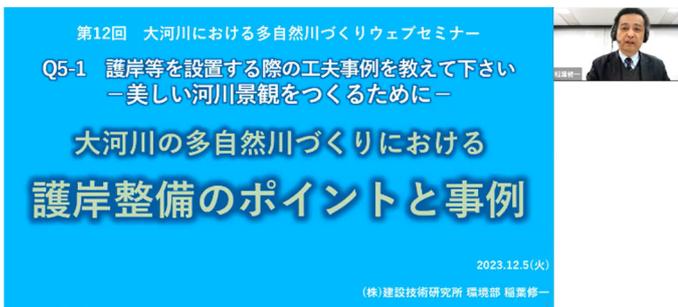
図 参加申込者の職種分類

### <第11回 ウェブセミナー開催概要>

- 開催日時：令和5年10月20日 16:00～17:10
- 開催形式：ZOOM ウェビナー  
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：「3次元データを活用した多自然川づくり」
- プログラム：
  - ① Q10-1 3次元データを活用した多自然川づくりの現状について教えてください  
講演者：公益財団法人 リバーフロント研究所  
主席研究員 中村 圭吾
  - ② 3次元データを活用した川づくりの最新事情について  
講演者：山梨大学大学院 総合研究部附属  
地域防災・マネジメント研究センター  
准教授 大槻 順朗
  - ③ 意見交換
- CPD：1.0単位（土木学会認定）

## 「リバフサポートセンター」からのお知らせ RiverFront Support Center

## ■第12回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第12回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を2023年12月5日(火)に開催しました。

第12回目は、「Q5-1 護岸等を設置する際の工夫事例を教えてください～美しい河川景観をつくるために～」に関して、「大河川の多自然川づくりにおける護岸整備のポイントと事例」と題して株式会社建設技術研究所東京本社環境部の稲葉修一主任より、「川の見方と護岸等の工夫事例」と題して株式会社建設環境研究所河川防災部門の中山尚部門長よりご紹介頂きました。

参加申込者は、おおよそ行政関係者が約4割、コンサルタント関係者が約5割で全体の約9割を占めており、合計で367名の方々に参加申込いただきました。参加者の皆様ありがとうございました。

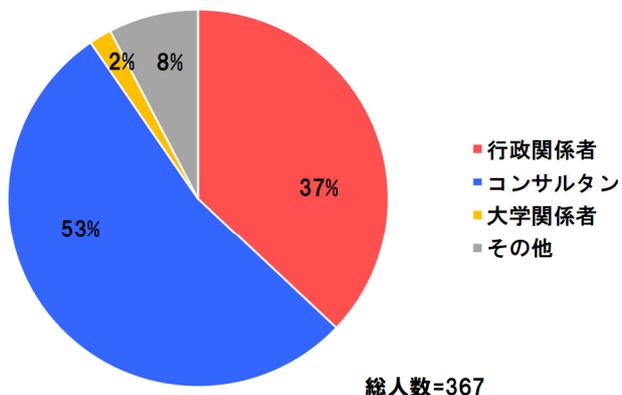


図 参加申込者の職種分類

## ＜第12回 ウェブセミナー開催概要＞

- 開催日時：令和5年12月5日 16:00～17:10
- 開催形式：ZOOM ウェビナー  
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：「Q5-1 護岸等を設置する際の工夫事例を教えてください～美しい河川景観をつくるために～」
- プログラム：
  - ① 大河川の多自然川づくりにおける護岸整備のポイントと事例  
講演者：株式会社建設技術研究所 東京本社 環境部 主任 稲葉 修一
  - ② 川の見方と護岸等の工夫事例  
講演者：株式会社建設環境研究所 河川防災部門 部門長 中山 尚
  - ③ 意見交換
- CPD：1.0単位（土木学会認定）

## ■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は来年5月頃開催予定です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP 及び YouTube のリバーフロント研究所チャンネルにて公開中です。

<https://www.youtube.com/c/RFCJAPAN>

今回の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下のURLをご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

## ■大河川における多自然川づくり-Q&amp;A形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かりやすく紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

[https://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guideline/kankyo/tashizen/qa.html](https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html)

会議・イベント案内 (2023年12月以降) *Event Information*

## (国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

## ■ミズベリング インスパイア フォーラム 2023

○日時：2023年12月15日(金) 15:00～18:00  
 ○主催：ミズベリングプロジェクト事務局 / 国土交通省水管理・国土保全局  
 ○場所：東京ポートシティ竹芝 ポートホール (東京都港区)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3494.html>

## ■iRIC 講習会@東京

○日時：2023年12月18日(月)～12月19日(火)  
 ○主催：iRIC 研究会  
 ○場所：日本大学駿河台校舎 1号館 132教室 (東京都千代田区)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3506.html>

## ■第211回 河川文化を語る会「砂防の歩みから考えるこれからの防災」

○日時：2023年12月18日 14:30～16:30  
 ○主催：公益社団法人 日本河川協会  
 ○場所：エル・おおさか 本館 5階「視聴覚室」(大阪府大阪市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3509.html>

## ■公開シンポジウム「自然を活かす新しい取り組み - グリーンインフラ・NbSのあり方」

○日時：2023年12月23日(土)13:00～16:30  
 ○主催：日本生態学会生態系管理専門委員会 他  
 ○場所：東京大学 弥生講堂 一条ホール または オンライン  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3511.html>

書籍紹介 *Publications*

## ■ 水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す



地域住民が発案・協働し、手づくりの技で、身近な生物の生きる環境を回復する「小さな自然再生」が全国で進んでいる。北海道で地域住民の発意により行なわれている小さな自然再生、とくに「手づくり魚道」の取り組みを紹介しながら、地域の人々にとって身近な自然やそれと結びついた風景はどんな存在なのか、地域の力でそれを取り戻すことの意味は何かを問う。

## &lt;目次&gt;

序章 変貌した故郷の風景——失われた空間の履歴  
 第1章 小さな自然再生との出会い——三郎川手づくり魚道ものがたり  
 第2章 広がる小さな自然再生  
 第3章 なぜいま小さな自然再生なのか  
 終章 小さな自然再生がひらく未来  
 終わりにかけて——海に生きる人に、風を

- 著者 中川大介 著
- 定価 2,200円 (税込)
- ISBNコード 9784540222023
- 発行日 2023年12月
- 出版 農山漁村文化協会(農文協)
- 判型/頁数 四六 280ページ
- 詳細はこちらから：

<https://toretate.nbkbooks.com/9784540222023/>

【お気軽にお問い合わせください】

## 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内  
 Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)  
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>